

令和 8 年度 第 1 回 イベントディレクタ認定試験 講評

1. 実施概要

- ・ 実施期日 令和 8 年 9 月 10 日～20 日
- ・ 単一選択式
- ・ 受検者 18 名
- ・ 認定者 15 名

2. 認定点

- ・ 認定点 74 点（100 点満点）
- ・ 最高点 94 点
- ・ 平均点 82 点

3. 総評

回答にあたっては、規則やガイドラインを正しく理解していることが求められる。競技規則や地図図式は継続的に改正が行われているので、ED は常に知識を更新することを心掛けなければならないが、学習教材や競技規則を読みこんでおらず、経験則だけで判断しているのではないと思われる受検者もいた。また、毎回の試験において、誤答の多い設問は傾向が類似しているので、過去の試験の講評も勉強の参考にしてもらいたい。なお、設問表記や規則改正により曖昧さが残っている設問もあったため、前回から認定点を引き下げている。設問の精査等を行っているところであり、将来的には 80 点を認定点としていきたい。

4. 設問のポイント解説

以下に、誤答が多かった設問のポイントについて解説する。

設問 5：西暦 2000 年 4 月 1 日生まれでは早生まれとなるため、29901 となる。（競技規則 4. 1、競技者登録に関する施行細則 5）

設問 6：地域クラブや大学クラブが公認大会を開催するためには、都道府県会員を通じて直接 JOA 事務局へ、申請しなければならない。（競技規則 3. 2）

設問 8：チームとして同じレッグを走るようにすることは必要であり、かつチームでの走区のパターン（チーム A は 1 走:長→2 走:短→3 走:長、チーム B は 1 走:短→2 走:長→3 走:長など）は同じでなければならない（上記の例は不適）。（競技規則 13. 6）

設問 14：プレティン 1 は開催予告であり、イベントアドバイザーの承認は必ずしも必要ではない。（競技規則 28. 4）

設問 16：複数のクラスに同じコースを割り当てる場合、より時間のかかりそうなクラスを先に出走させると、あとからスタートするクラスの参加者が先にスタートした参加者に追いつきバンチング（いわゆるバック状態）が発生しやすく、公平性が低下するため、原則として、優勝設定時間の短いクラスからスタートさせる。

設問 21：ISSPrOM と ISOM は、同じ地図記号も使用されているが、記号が追加されただけではない。（ISOM,ISSPrOM）

設問 30：バタフライループを採用するときには、競技者によってコースが異ならないように、レッグが逆さにならないように留意する。（競技規則 13. 7）

設問 34：競技者を惑わすことのないよう、コントロールは一定以上の間隔をあけて設置する。

フォレスト競技では、直線距離で 30m 以上（同一特徴物や、類似に見える特徴物では 60m 以上）

スプリント競技では、走行距離で 25m 以上、直線距離で 15m 以上

（競技規則 16. 4）